

私の本棚

海底堆積物

高専の教員として勤務していた頃、講義の準備をしているうちに内容に興味が出てきて、何時間も調べ物をするのがよくありました。このとき、英語の教科書よりも短時間で読める日本語の教科書で、さらに学生さんにも紹介できるものをもっとあればいいのに、と何度思ったことかわかりません。そこで今回は、原文は英語であっても、優れた教科書で日本語に翻訳された本をご紹介します。

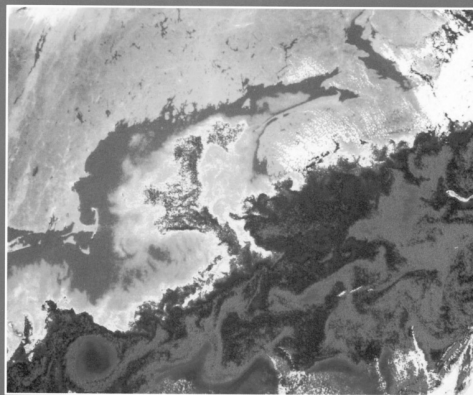
今回は、学生さんに人気のあった海洋科学の中でも、とりわけ海洋堆積物に関する教科書です。海底に降り積もる堆積物は、気候に応じて泥や砂の組成比が変化することから、過去の気候変動を記録していると言われていました。昨今、地球温暖化問題が叫ばれ、今後の地球の気候はどうなるのか、関心を持っておられる方は少なくありません。地球温暖化問題の解決のためには、過去の地球像を精度よく把握し、近未来の地球像を正確に予測し、具体策をとることが重要です。海底堆積物は、過去の地球規模で起こる気候変動を時間的に連続的に記録している物質ですから、期待されています。

また時間とともに堆積物が積もることにより、圧力が加わり、堆積物中の物質の状態は変化します。この過程で、石油やメタンなどが形成されていきます。陸上資源の少ない日本海底下の資源形成過程を調べることも今後重要性を増すでしょう。

海底堆積物について基礎から勉強できる教科書としては『Ocean Chemistry and Deep-Sea Sediments』(Open University Course Team, 1989)がお勧めです。本書は、島根大学の野村律夫教授によって翻訳され『海洋堆積物の基礎』(愛智出版, 1998)として日本で発刊されました。本書は、1～5章から成っており、概説から、海洋の化学循環、遠洋性の生物起源堆積物、陸源性堆積物の深海への供給、深海堆積物における堆積後のプロセス、の順番で詳しく書かれて

海洋堆積学の基礎

英国オープン大学 編
野村 律夫 訳



愛智出版

います。また重要な専門用語は太字で書かれており、要点をとらえやすくなっています。

本書は、堆積学だけでなく微古生物学や地球化学といった分野を網羅しています。初めてこのような分野に触れる学生さんには、大変理解しやすい内容となっています。特に学部卒業後、この分野の大学院の受験を考えておられる学生さんには、非常にお勧めです。私自身も学部の4年生のときに本書を先生から紹介され、大変参考になりました。

もちろん、今後、海底堆積物の研究を始められる方にとっても、大きな手助けと成る一冊です。

(産総研 地質情報研究部門 川村紀子)